

Graduate School of

Agriculture

農学研究科

環境の世紀に食料・環境・生命の問題解決への道を探究する

「環境の世紀」とも呼ばれる現在、人間活動が地球環境に与える影響を分析し、子孫に残すべき環境を護るための努力が求められています。地球上の80億人を超える人々が健康で文化的な生活をするためには、食料生産の維持、拡大と流通の確保は焦眉の急ですが、これに伴う森林伐採、大気・水質汚染などの環境問題、生物・遺伝資源多様性の減少などの問題にも適切な対応が求められています。地球規模の気候変動の中で持続可能な農業を展開し、自然と人間の共生と調和を図ることが、人類の今後の生存を保障すると考えられます。このような重大な状況の中で、農芸化学専攻、農学専攻、農業経済学専攻、生命科学専攻の4専攻で構成される農学研究科は、21世紀が直面している「食料・環境・生命」に関する重要な諸問題について解決の道を探究するために、分子・細胞レベルから人間の社会活動や地球環境レベルに至るまで、幅広く多様な視点から研究・教育活動を行っています。

開室時間（中央校舎1F）

※事務取扱時間（開室時間）はHPで確認してください。

電話●044-934-7575 Mail●nouken@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により開室時間に変更となる場合があります。



農学研究科Webページ

<https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/index.html>



入学者の受入方針

（アドミッション・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_ap.html



教育課程編成・実施方針

（カリキュラム・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_cp.html



学位授与方針

（ディプロマ・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_dp.html

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

産業の著しい発展により人類が豊かになった反面、地球環境全体に関わる問題が深刻化している21世紀は、環境の世紀とも言われている。農学研究科は、自然と人間の持続的な共生と調和を目指して「食料・環境・生命」の総合科学を推進している。分子レベルから地球環境レベルに至る多様な課題について、ライフサイエンスから社会科学までの幅広いアプローチにより、生命への洞察力和豊かな人間性を育み、高度な専門知識を備え、広い視野から問題解決に当たることができる専門性と総合性を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。



●● 農学の発展に寄与する4つの専攻

農学研究科は、農芸化学専攻、農学専攻、農業経済学専攻、生命科学専攻の4分野で構成されています。

農芸化学専攻

食料や環境、生命に関する諸課題を克服し、人類の持続的生存を保証するために貢献することを目指します。

農学専攻

広く農学に関する動物、植物、環境を対象とし、基礎と実用の融合した教育・研究の展開を目指します。

農業経済学専攻

国内はもとより、広く世界の食料問題、農業問題、環境・資源問題、農村地域問題などの解決に貢献することを目指します。

生命科学専攻

生命の分子機能、生殖医療、健康福祉、生物共生と環境保全など、人間社会の維持・発展に貢献することを目指します。

●● 農学研究科の主要研究施設・設備

ライシメータ

作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量(要水量)を経時的に捉えるための施設。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。



電子顕微鏡システム

200kVoltの加速電圧が可能な透過電子顕微鏡(HC-TEM)と電界放射型の走査電子顕微鏡(FE-SEM)からなります。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を見ることが可能です。



高速次世代シーケンサー

初期のゲノムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1~2日程度で決定できる能力を持ったシーケンサーです。農学部特有のゲノム未知の微生物から産業動植物まで、幅広い生物種のゲノム・ポストゲノム解析を行うことが可能です。



マイクロアレイデータ処理装置

刺激や環境条件による数千種類の遺伝子発現の変化を網羅的に調べる装置で、ポストゲノム解析に活用されています。



プロテオーム解析用質量分析システム

生体分子の質量を10万~100万分の1ほどの誤差範囲で正確に測定することができ、極微量の試料を分離できる液体クロマトグラフィーと併用することで、一度に数百種類のタンパク質を分析することが可能です。



誘導結合プラズマ質量分析計(ICP-MS)

高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。



黒川農場

環境・自然・地域との共生をコンセプトとした農場を、2012年4月に神奈川県川崎市麻生区の黒川地区に開場しました。生田キャンパスからも近く、これまでの千葉県・誉田や山梨県・富士吉田の両農場では難しかった、年間を通しての継続的な実習なども可能となります。農場は黒川地区の自然を最大限に生かした設計がされており、先端技術を駆使した生産

効率の高い栽培システムと、有機農法をはじめとする環境保全型システムを併せ持ちます。地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指します。

体験型実習教育ならびに、研究活動に対応できる多目的な都市農場を実現するため、「環境共生」「自然共生」「地域共生」の3つのコンセプトを基本にそれぞれのシステムを備えています。

農芸化学専攻

農芸化学専攻では、生物や環境の構造と機能および物質変化(代謝・生態)の本質的解明を人間生活に応用することを目指しています。特に食品化学、微生物科学、栄養科学、環境科学などの分野で多面的な研究を行っています。

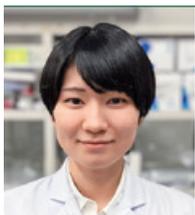
● 人材養成その他の教育研究上の目的

農芸化学専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題を物理、化学および生物学の自然科学ならびに分子生物学、工学などをもとにし、先端技術を駆使して解決することを主眼とする。教育研究上の目標に、人と他生物の共存(持続可能な地球環境)を図ることも念頭に置き貢献することを目的とする。教育・研究を通して輩出する人材は、農芸化学分野に関係する世界をはじめ、あらゆる職種に適う応用力のある専門性に富んだ人材の養成を目指す。博士前期課程では、農芸化学に係る広い知識および高度な技術を身につけた研究者または技術者を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・先端的な研究・開発と実社会での指導的役割を担う研究者・教育者を育成する。

● 2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ 真核微細藻類Cyanidioschyzon merolaeを用いたL-乳酸生産における暗黒培養法の最適化
- ▶ 植物病原菌が生産する根寄生植物発芽誘導因子に関する研究
- ▶ Dietzia maris 1-5株が生産するbiosurfactant様物質の精製条件の検討
- ▶ フレッシュタイプチーズの溶解性に関する研究
- ▶ 植物由来ヒステシルtRNA合成酵素の特異的ドメインの機能解析
- ▶ 植物根における細胞外活性酸素種のモニタリング手法の開発
- ▶ 節足動物由来真菌が生産する二次代謝産物に関する研究
- ▶ 根寄生植物におけるストリゴラクトン生成に関する研究
- ▶ ハマツボ科根寄生植物におけるフェニルエタノイド配糖体の生合成と生理作用に関する研究
- ▶ 真核紅藻Cyanidioschyzon merolae由来isoamylase CMI294Cの生化学解析と応用の検討
- ▶ ノイバラ由来トリテルペン合成酵素の機能解析
- ▶ ヨーグルトのカゼインネットワーク構造に関する研究—加工条件の違いが食感・物性に影響する—
- ▶ モデルラン藻Synecocystis sp. PCC 6803 クエン酸シンターゼ過剰発現株における表現型探索
- ▶ 食事由来酸化植物ステロールの脂質代謝に与える影響
- ▶ プラントベースヨーグルトの食感デザイン
- ▶ 低温性接合菌を用いた新規発酵法の開発
- ▶ ラットにおける発酵ポリアフェノールの脂質代謝調節機能に関する比較検証
- ▶ 未利用資源からの環境にやさしいものづくりのための微生物プラットフォームの構築
- ▶ 下水汚泥溶融スラグのリン可給性向上に向けた下水汚泥溶融スラグのリン形態とリン可給性の解明
- ▶ Bifidobacterium属細菌との共培養による酪酸生産の増強促進効果
- ▶ Aquafabaを用いたプラントベースマカロンの「らしい」おいしさの再現
- ▶ 水質系バイオマス燃焼灰の物理化学性に基づく農業資材としての用途別適性：燃料種および燃料混合比率に着目した肥料、土壌改良材、CO₂吸着材への適用可能性の整理
- ▶ 植物内におけるcis-ケイヒ酸の活性制御機構の解明
- ▶ タンパク質欠乏マウスにおける炎症応答にレプチンが及ぼす影響
- ▶ 大腸菌K-12株におけるメチオニン代謝関連転写因子による転写制御ネットワークの解明と土壌生存性に関する転写因子の包括的特定
- ▶ Aspergillus niger E-1における形態変化の制御
- ▶ 柑橘類ポリフェノールによる前駆脂肪細胞の脂肪蓄積抑制効果のメカニズムの解明
- ▶ 遅延剤を添加したソイルセメントにおける遅延阻害メカニズムの解明による遅延阻害に寄与する粘性土の物理化学性
- ▶ ヨーグルトの構造・物性が食感に与える影響
- ▶ カゼインネットワーク構造形成における乳糖の面体多糖(Exopolysaccharide)の寄与—
- ▶ 真核紅藻Cyanidioschyzon merolae由来フィコシアニンの抗酸化機能と実用性の評価
- ▶ グルコースストレスが真核微細藻類Euglena gracilisに及ぼす影響の解明
- ▶ ビタミンC欠乏と再摂取がODSラットの不安様行動に及ぼす影響の解明
- ▶ ストリゴラクトン化学構造多様性の生物学的意義の解明
- ▶ モツァレラチーズおよびイミテーションチーズの特性評価
- ▶ 紅藻Cyanidioschyzon merolae由来乳酸脱水素酵素の生化学解析
- ▶ プラントベースフードのための加熱ゲル化に関する研究
- ▶ オルト酸誘発性脂肪肝における脂肪蓄積形態の解明

● 院生からのメッセージ



高橋 のぞみ

TAKAHASHI Nozomi

農芸化学専攻
博士前期課程 2年

興味の追究により、新たな可能性を見出していく

私は母乳に含まれる脂質構造について、脳と末梢との相互作用から抗肥満効果を紐解く研究を行っています。学部時代の共同研究や学会発表を通じて研究の面白さを実感し、究めたいと思った点から進学を決めました。大学院では思う存分研究ができる他、同じ思いを持つ仲間やその道のプロに出会える点が魅力だと考えます。また、研究を通して得た学びや仲間が、研究成果や自身の新たな一面に気づかせてくれたと感じています。ぜひ皆さんも興味を追究し、自分自身の新たな可能性を探求してみてください。

● カリキュラム一覧

| 主要科目 | |
|------------------|--|
| 農芸化学研究演習Ⅰ～Ⅳ | 食品機能化学特論 |
| 農芸化学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ | 食品安全健康科学特論 |
| 微生物遺伝学特論 | ゲノム微生物学特論 |
| 栄養生化学特論 | 食品工学特論 |
| 天然物有機化学特論 | 微生物生態学特論 |
| 環境分析化学特論 | 生物物理学特論 |
| 土壌園科学特論 | 微生物化学特論 |
| 植物環境制御学特論 | ケミカルバイオロジー特論 |
| 植物制御化学特論 | 発酵食品学特論 |
| 食品生化学特論 | 環境バイオテクノロジー特論 |
| 特修科目目 | |
| 微生物利用学特論Ⅰ・Ⅱ | 科学論文英語特論 |
| 畜産物利用学特論Ⅰ・Ⅱ | 最新生命化学特論 |
| 先端分析機器学特論Ⅰ・Ⅱ | Global Scientific Communication in English |
| 構造細胞生物学特論Ⅰ・Ⅱ | 科学者倫理 |
| 細胞生物学特論Ⅰ・Ⅱ | ジオスタティスティクス特論 |

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

● 近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|--------|---|--------|
| 博士(農学) | シアロバクテリアの糖異化経路の重点的解析：酵素に着目した解析による酸化的ペントースリン酸経路とトリカルボン酸回路の生化学的・物性の解明 | 2021年度 |
| 博士(農学) | モデルラン藻のアルギニン生合成系の解析—オルニチン回路を中心とした酵素の生化学解析と遺伝子過剰発現株の表現型解析— | 2023年度 |

論文博士

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|--------|--|--------|
| 博士(農学) | 15-デオキシシタラ ^{12,14} -プロスタグランジン ₂ による神経細胞変性誘導機構の解明 | 2021年度 |
| 博士(農学) | ヨーグルトの発酵を担う乳酸菌 Lactobacillus delbrueckii subsp. bulgaricus と Streptococcus thermophilus の共生メカニズムに関する研究 | 2021年度 |
| 博士(農学) | 食感の良いプレーンヨーグルトの新たな製造技術に関する研究 | 2024年度 |

博士前期課程

Master's Program

Q 師事している教員は？

A 金子 賢太郎 准教授

栄養生化学研究室では、食欲の中枢である脳やその情報を伝達する内分泌系の働きを調査することで、食・栄養シグナルと身体の関係性を明らかにしています。特に脂質に着目しており、代謝や睡眠、認知行動など多岐な視点での研究に取り組んでいます。食成分と身体との相互作用の解明により、医食同源の実現や食による健康寿命延伸を目指しています。

教員情報 P.153

農学専攻

農学専攻では、有用動植物資源（農作物、園芸作物、家畜など）の持続的かつ効率的な生産と利用に資するよう、生物・化学・物理・数学的手法を駆使して問題の発見とその解決を図るための基礎研究ならびに応用研究に関する科目を幅広く配置しています。また、有用動植物資源を生産するための水・土壌環境の最適制御や、人間と自然の共生を可能にする環境の構築に関する科目も配置し、食料と環境を総合的に捉える能力を身につけることができます。

人材養成その他の教育研究上の目的

近年の人間活動の活発化に伴う地球環境の劣化、人口の爆発的増加に伴う食料不足等、人類を含めた生物の生存にとって憂慮すべき諸問題が生じている。農学専攻では、遺伝子、細胞、個体、個体群・群集、生態系および景観に関する実験ならびに理論研究を通して、効率的かつ持続可能な農業や人間と自然の共生を可能にする環境の構築に寄与する国際的にも活躍できる高い問題解決能力を持つ高度専門職業人と農学研究者を育成する。

博士前期課程では、農学の幅広い専門知識を活かして社会に貢献できる人材を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・先端的な研究開発を担う研究者や技術者を育成する。

2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ハトムギの収量および抗酸化力を高める栽培技術の確立に関する研究
- ▶線虫胎生性の適応的意義の解明に向けた糞虫便糞性線虫の網羅的調査
- ▶ポートフェンダーによるバンドウイルカの吐き戻し行動減退策について
- ▶陸から海へ戻ったAcrostichus属線虫の進化
- ▶オリーブ炭疽病菌の種構成および生活環の解明に関する研究
- ▶植生の葉面スペクトル変化を用いた土壌水分量推定
- ▶ポストコロナ期における公園内イベントへの需要実態調査—位置情報ビッグデータを用いて—
- ▶Effects of preparation for the substitute host, Zophobas atratus pupa on parasitism of the parasitoid beetle, Dastarcus longulus
- ▶アマミノコウサギ (Pentalagus furnessi) の自然免疫に関する遺伝的多様性解析
- ▶Salicornia europaea (アッケシソウ) の挿し木増殖法および新規赤色野菜の開発に関する研究
- ▶マイクロナノバブルの水田土壌への施与時の移動とメタン排出低減効果
- ▶海馬内のPACAP (Pituitary adenylate cyclase-activating peptide) とNmU (Neuromedin U) が雄フラットの不安様行動と学習・記憶に及ぼす影響
- ▶オクラの生産および流通における問題の解決に向けた擔心栽培に関する基礎研究および品質保持技術の提案
- ▶ガクアジサイおよびヤマアジサイの耐塩性評価と耐塩性機構解明の試み
- ▶ズッキーニの植栽によるヒメハナカメムシ類個体群の保護と強化のための基礎的研究
- ▶ブルーベリー—の自発休眠状態と花芽形成に及ぼす過酸化水素および乾燥処理の影響
- ▶異なる液肥条件下で養液栽培したスイカ果実中のミネラル及びアミノ酸含量分布
- ▶畜舎発生イエバエにおける殺虫剤抵抗性の作用点変異に関する分子生物学的研究
- ▶オクラ植栽によるヒメハナカメムシ類の産卵効果の再評価と有効性のメカニズムについて
- ▶農業分解産物3-methyl-4-nitro-phenolの新生仔期曝露が雌フラットの性嗜好性・生殖能力に及ぼす継世代影響
- ▶養母粒子の選択配向による放射性セシウム移行の評価
- ▶Analysis of Temporal Changes in Dielectric Constant and Vegetation Growth Using GPS Signal Reflections in Paddy Field
- ▶GREENHOUSE GASES DYNAMICS: THE ROLE OF RICE VARIETIES AND IRRIGATION PRACTICES
- ▶Analysis of Perfluoroalkyl Substances concentration applied at different growth stages of crops in various plant parts
- ▶サツマイモネコブセンチュウの性決定機構の解明
- ▶東京都の埋立地におけるアブラコモリから見た都市環境の多面的な解析
- ▶Effects of high temperature exposure on decomposition characteristics of fresh Sphagnum litter
- ▶アスパラガスの1年養成株全収穫栽培法 (採りっぎり栽培) におけるハウス半促成栽培技術の開発

院生からのメッセージ



池田 優月

IKEDA Yuzuki
農学専攻
博士前期課程 2年

研究に向き合い、多角的な力を培える場

私は「マツ材線虫病の病原体であるマツノザイセンチュウと、その近縁種間における生物間相互作用の解明」を目指し、学部頃から継続した研究テーマに取り組んでいます。

進学後は、研究を主軸とした生活の中で、TAを通じた教育補助や、大学院助成制度を利用した国際学会への参加など、進学の道を選んだからこそ培える経験があります。自分の興味とまっすぐに向き合い、それを発展させ外へ発信する力を養える大学院での時間は、研究という枠を超えて活きるものだと思います。

カリキュラム一覧

| 主要科目 | |
|----------------|--------------|
| 農学研究演習Ⅰ～Ⅳ | 植物病害虫学特論 |
| 農学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ | 農業農村工学特論 |
| 作物科学特論 | 共生景観論特論 |
| 園芸科学特論 | フィールドサイエンス特論 |
| 動物科学特論 | |

| 特修科目他 | |
|--------------|--|
| 園芸植物生理学特論Ⅰ・Ⅱ | 動物育種学特論 |
| 植物保護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ | 動物繁殖学特論 |
| 分子生物学特論Ⅰ・Ⅱ | 動物行動学特論 |
| 農業薬理学特論Ⅰ | 栽培学特論 |
| 土壌肥科学特論Ⅰ・Ⅱ | 作物物質生産論特論 |
| 緑地情報学特論Ⅰ・Ⅱ | 農業気象学特論 |
| 農業機械学特論Ⅰ・Ⅱ | 生物統計・研究デザイン学特論 |
| 環境地盤工学特論Ⅰ・Ⅱ | 造園植栽特論 |
| 環境地水学特論Ⅰ・Ⅱ | 生態学特論 |
| ランドスケープ情報特論 | Global Scientific Communication in English |
| 環境シミュレーション特論 | 科学者倫理 |
| | ジオスタティスティクス特論 |

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|---------|---|--------|
| 博士 (農学) | 農地における温室効果ガス発生因子に関する研究 | 2023年度 |
| 博士 (農学) | バラ切り花品種「イヴ・ピアッチェ」の「インカーブ花」における奇形花弁発生機構および対策方法に関する研究 | 2023年度 |
| 博士 (農学) | 減災に向けた土壌水分量計測と乾燥亀裂に関する研究 | 2023年度 |
| 博士 (農学) | Modeling greenhouse gas emissions in rice paddies using machine learning techniques | 2023年度 |
| 博士 (農学) | The mechanism of pine wilt disease revealed by triadic relationship among Bursaphelenchus xylophilus, host pine tree, and vector cerambycid beetle. | 2023年度 |
| 博士 (農学) | 放射性セシウムの土壌圏での動態 | 2024年度 |
| 博士 (農学) | 昆虫寄生性線虫における寄生戦略 | 2024年度 |

博士前期課程 Master's Program

Q 師事している教員は？

A 新屋 良治 准教授

植物線虫学研究室では、小さくも不思議に満ちた線虫を、分子レベルから生態レベルまで幅広く研究しています。植物に寄生する線虫に限らず、昆虫寄生性や極限環境に生息する線虫を題材とし、地球上で最も繁栄した生物群の一つと言われる線虫の生き様から、寄生線虫病の防除や生物の適応進化プロセスの解明に繋げることを目指しています。

教員情報 P.154

農業経済学専攻

農業経済学専攻では、日本の食料の生産・流通・加工・消費の経済的側面の理論的実証的研究、先進国と途上国の農業・食料事情などの研究に加え、農業・農村の多面的機能（景観、保健・休養等）に関する研究を進めています。

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

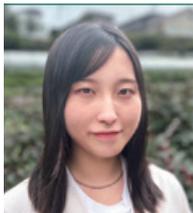
現代社会には、農業と食料、環境と資源をめぐる様々な問題が発生している。農業経済学は、経済学を中心としつつも、隣接する経営学・社会学・政治学等の社会科学により、その解明にアプローチする分野である。それを学問的なベースとする農業経済学専攻は、これらの社会科学上の豊富な基礎知識を身につけ、国際的視点や歴史的視点から幅広く問題をとらえ、さらに具体的な課題の解決に導く高い実践力を持つ人材の養成を目的とする。

博士前期課程では、農業経済学に係る幅広い専門知識を活かして社会に貢献できる人材を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的で社会をリードする研究・教育を担う研究者・教育者を育成する。

●● 2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ 地域農業における養蜂の可能性
- ▶ 農学系専門大学が職業選択へ与える影響に関する考察

●● 院生からのメッセージ



杉田 華澄
SUGITA Kasumi
農業経済学専攻
博士前期課程 2年

たくさんのあたたかな出会いの中で得た学びや気づきを大切に

私は、農業体験により形成される都市住民と農家の持続的な関係構築について研究を行っています。学部生時代の研究で農業が持つ教育力について考察したことにより、さらに深い研究への意欲が高まり進学を決めました。大学院では専門性が高く幅広い学問の講義があり、自身の研究テーマを多様な視点から捉えることができます。講義外の時間には同期との活発な議論の他、農村に赴き調査を行うなど充実した日々を送っており、そうした多くの人との関わりが自分を大きく成長させてくれたと感じています。

Q 師事している教員は？ A 竹本 田持 教授

農業マネジメント論研究室では、農業経営の多角化や農業・農村関連ビジネスをキーワードに農村地域活性化について考察しています。また、農家の方々と直接交流を大切にしており、実習の機会が多いことが特徴です。実習で現地の方と会話することで得られる気づきが日々の議論の論点になり、学部生・院生問わず活発に意見が交わされています。

教員情報 P.155

●● カリキュラム一覧

主要科目

| | |
|----------------|----------------|
| 農業政策論演習Ⅰ～Ⅳ | 農業政策論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 環境経済論演習Ⅰ～Ⅳ | 環境経済論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 地域ガバナンス論演習Ⅰ～Ⅳ | 地域ガバナンス論特論Ⅰ・Ⅱ |
| フードシステム論演習Ⅰ～Ⅳ | フードシステム論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 環境社会学演習Ⅰ～Ⅳ | 環境社会学特論Ⅰ・Ⅱ |
| 資源経済論演習Ⅰ～Ⅳ | 資源経済論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 食料農業社会学演習Ⅰ～Ⅳ | 食料農業社会学特論Ⅰ・Ⅱ |
| 食料貿易論演習Ⅰ～Ⅳ | 食料貿易論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 環境資源会計論演習Ⅰ～Ⅳ | 環境資源会計論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 国際農業経済論演習Ⅰ～Ⅳ | 国際農業経済論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 農業マネジメント論演習Ⅰ～Ⅳ | 農業マネジメント論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 国際開発論演習Ⅰ～Ⅳ | 国際開発論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 食ビジネス論演習Ⅰ～Ⅳ | 食ビジネス論特論Ⅰ・Ⅱ |
| 共生社会論演習Ⅰ～Ⅳ | 共生社会論特論Ⅰ・Ⅱ |

特修科目他

| | |
|----------|--|
| 農業経済学特論Ⅰ | 農業経済学特論Ⅵ |
| 農業経済学特論Ⅱ | Global Scientific Communication in English |
| 農業経済学特論Ⅲ | 科学者倫理 |
| 農業経済学特論Ⅳ | ジオスタティスティクス特論 |
| 農業経済学特論Ⅴ | |

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

●● 近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|--------|---------------------------------------|--------|
| 博士（農学） | 和牛繁殖農家の存続要因に関する実証研究 | 2022年度 |
| 博士（農学） | 農業経営体の適応策に関する実証研究 —圃場分散と気候変動に着目して— | 2022年度 |

論文博士

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|--------|--|--------|
| 博士（農学） | 女性農業者の「参加と学習の場」に関する研究 —組織からネットワークへ— | 2021年度 |

生命科学専攻

生命科学専攻では、動物、植物、微生物を中心に、その生命現象の基礎研究から応用研究までを遺伝子レベル・分子レベルで解析を進め、“生命の持つ神秘性”を理解するとともに、農学的な視点から食料、環境、医学および健康に関わる多くの課題の解決を目標とした最先端の研究と教育を行っています。

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

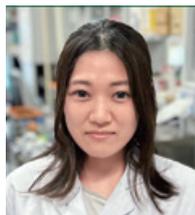
生命科学専攻では、生命科学とバイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を共通基盤とし、「食料、環境、生命」について基礎・応用の面から広く動・植物、微生物を対象に分子・細胞から個体レベルで研究を進めている。これらを通じて、高度な専門知識と技術を持ち、食品、化学、医薬、ゲノム解析、生物資源、環境の保全など広い分野の研究・教育機関と産業界で活躍する人材を育成する。

博士前期課程では、生命科学の素養と幅広い視野および論理的な思考を身につけ、食品、医療、生物資源、環境保全を含む様々な分野で活躍できる人材を育てる。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・先端的な研究・開発と実社会で指導的役割を担う研究者・教育者を育成する。

●● 2024年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶植物ミクロオートファジーにおけるPLA2Aの機能解析
- ▶オートファジーとアポトーシスに関する DRAM1 の発現制御に関する研究
- ▶Mφと子宮内臓における非自己認識時の細胞外酸性化の役割
- ▶イネOsCERK1変異体の選抜・作出とその機能解析
- ▶イネLPS結合タンパク質の探索手法の構築
- ▶筋骨格組織の発生・分化制御メカニズムの解析
- ▶ヒトサイトメガロウイルス生活環に与する新たな細胞因子の同定および機能解析
- ▶出芽酵母のオートファジーにおけるアミノ酸動態のプロテオーム解析
- ▶高濃度フェノール分解性深海酵母に関する研究
- ▶非マメ科根粒着生植物バラセポシアにおけるキチン誘導性防御応答受容体の探索
- ▶植物オートファジーの分子機構解明に向けた唯一のオートファジー関連膜タンパク質ATG9の解析
- ▶糖化タンパク質受容体RAGEが認識するリガンドの化学構造および作用の解析
- ▶ラット腱細胞における力学応答メカニズムの解析
- ▶シロイヌナズナの膜交通因子SYP71の表皮機能と器官成長における役割の解析
- ▶スレオースおよびグリセルアルデヒド由来メイラード反応後期段階生成物の構造・生理作用の解析
- ▶シリアンハムスターの性周期回帰性および光周反応
- ▶X連鎖性遺伝病原因遺伝子OTCのDNAメチル化制御とマウスES細胞を用いたブタ配列置換細胞の作製
- ▶マウス脳内におけるγ-アミノ酪酸 (GABA) 放出の概日リズム
- ▶ベンザミアナタバコを用いたイネCEB1P恒常発現変異体の作出
- ▶成長・生存に対するOGR1の役割解明の試み
- ▶CpG island shoreに注目したブタFBN1発現制御機構の解明と哺乳類種間の保存性解析
- ▶PYモチーフを介したSMAD2ユビキチン化の抑制が骨格筋へ与える影響の解析
- ▶筋線形形成メカニズムの解明
- ▶破骨細胞分化に対するコラーゲン架橋分子ピリジノリンの作用の解析

●● 院生からのメッセージ



柳生 真子

YAGTU Mako
生命科学専攻
博士後期課程 3年

科学を共通言語に、生命現象の未知の謎へ挑む！

植物は芽生えたその場で様々な環境ストレスに適應するため、その巧みな生存戦略は多岐にわたりますが、未解明な現象も多く存在します。私は植物の細胞内で最も巨大で多機能なオルガネラ『液胞』に着目し、その膜上で起こる自己成分分解の仕組みを解明しようと研究に取り組んでいます。未知の現象を探索することは、知識であふれた現在においてできる最も贅沢なことの一つだと私は感じています。皆さんと、科学を共通言語に、大学院でより深く生命現象を探索できる日を楽しみにしています！

Q 師事している教員は？ A 吉本 光希 教授

自己成分を分解する機構『オートファジー』は、植物が過酷な環境で高次機能を維持し生き延びていく上で重要な機構です。環境応答生物学研究室ではオートファジーが植物の細胞内でどのように働くのか？その生理的意義は何か？を分子レベルで解明するために日々研究に勤しみ、サイエンスを大いに楽しんでいます！

教員情報 P.156

●● カリキュラム一覧

| 主要科目 | |
|------------------|--|
| 生命科学研究演習Ⅰ～Ⅳ | 生命科学総合講義Ⅲ |
| 生命科学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ | 生命科学総合講義Ⅳ |
| 生命科学総合講義Ⅰ | 生命科学総合講義Ⅴ |
| 生命科学総合講義Ⅱ | |
| 特修科目他 | |
| 生命科学特論Ⅰ | 生命科学特論Ⅷ |
| 生命科学特論Ⅱ | 生命科学特論Ⅸ |
| 生命科学特論Ⅲ | 生命科学特論Ⅹ |
| 生命科学特論Ⅳ | Global Scientific Communication in English |
| 生命科学特論Ⅴ | 科学者倫理 |
| 生命科学特論Ⅵ | ジオスタティスティクス特論 |
| 生命科学特論Ⅶ | |

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

●● 近年の博士学位授与 [抜粋]

| 学位の種類 | 論文タイトル | 授与年度 |
|--------|---|--------|
| 博士(農学) | 種子休眠の制御機構に関する分子遺伝学的研究 | 2022年度 |
| 博士(農学) | 細胞内自己成分分解系オートファジーを介した植物体内金属の利用効率向上機構の解明 | 2022年度 |
| 博士(農学) | 遺伝子改変ブタの膀胱を利用するヒト豚島作製の試み | 2022年度 |
| 博士(農学) | 種子発芽の温度応答を制御するMAPキナーゼ経路の同定と機能解析 | 2023年度 |
| 博士(農学) | 概日リズム機構における視交叉上核神経ペプチドの役割に関する研究 | 2023年度 |
| 博士(農学) | 概日リズム機構における視交叉上核出力メカニズムの解明 | 2023年度 |

● 教員一覧

農芸化学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 農芸化学専攻 教員一覧 >>>



荒谷 博

ARAYA Hiroshi

博士(農学)
教授

研究分野 天然物有機化学/生態化学

【最終学歴】東京工業大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/天然物有機化学特論
【研究テーマ】動植物および高等菌類等が産生する二次代謝物質に関する研究



石丸 喜朗

ISHIMARU Yoshio

博士(農学)
教授

研究分野 食品科学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品機能化学特論
【研究テーマ】脊椎動物の味覚・臍性感覚の受容・伝達と生体応答機構



長田 恭一

OSADA Kyoichi

博士(農学)
教授

研究分野 食品栄養化学/脂質生化学/食品安全学

【最終学歴】九州大学大学院
【担当授業科目】食品安全健康科学特論
【研究テーマ】脂質酸化物の有害作用とその栄養化学的対策に関する研究/脂質代謝を調節する食品成分の検索と安全性に関する研究



島田 友裕

SHIMADA Tomohiro

博士(工学)
教授

研究分野 ゲノム微生物学

【最終学歴】法政大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/ゲノム微生物学特論
【研究テーマ】大腸菌をモデル微生物としたゲノム転写制御機構の全体像の解明



久城 哲夫

KUSHIRO Tetsuo

博士(薬学)
教授

研究分野 天然物化学/ケミカルバイオロジー

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/ケミカルバイオロジー特論
【研究テーマ】植物・微生物由来天然物の生合成研究/アミノアシルtRNA合成酵素の二次機能の探索研究



竹中 麻子

TAKENAKA Asako

博士(農学)
教授

研究分野 食品生化学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品生化学特論
【研究テーマ】食品中のタンパク質とビタミンEに関する分子栄養学/ビタミンEによる情動行動制御に関する研究



中島 春紫

NAKAJIMA Harushi

農学博士
教授

研究分野 応用微生物学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物生態学特論
【研究テーマ】糸状菌における細胞表面タンパク質ハイドロフォビンの機能解析と応用



中村 卓

NAKAMURA Takashi

農学博士
教授

研究分野 食品構造工学
～おいしさを食品構造から追究～

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品工学特論
【研究テーマ】多成分系(タンパク質・油脂・多糖類)食品の加工時の構造形成と咀嚼時の構造破壊の見える化による食感デザイン



前田 理久

MAEDA Michihisa

博士(農学)
教授

研究分野 応用微生物学・微生物遺伝学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物遺伝学特論
【研究テーマ】微生物の環境適応および遺伝的多様性創成の分子メカニズムの解明/微生物を利用した環境にやさしいものづくり



村上 周一郎

MURAKAMI Shuichiro

博士(農学)
教授

研究分野 応用微生物学/環境微生物学

【最終学歴】神戸大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物化学特論
【研究テーマ】有用微生物の分離・生産される物質や酵素の特性解析/熟生肉や熟生魚の機能性の解明/新規発酵パン種の開発



安保 充

ABO Mitsuru

博士(農学)
准教授

研究分野 分析化学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/環境分析化学特論
【研究テーマ】生体の環境応答・環境ストレス物質を対象とした分析化学。バイオセンサーの開発



小山内 崇

OSANAI Takashi

博士(農学)
准教授

研究分野 微細藻類を用いた代謝工学および有用物質の生産

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/環境バイオテクノロジー特論
【研究テーマ】微細藻類を用いた、プラスチック原料や色素などの新しい生産法の開発



加藤 雅彦

KATOH Masahiko

博士(農学)
准教授

研究分野 土壌学、地盤環境学

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/土壌科学特論
【研究テーマ】資源最小投入量による作物生産に向けた土壌中物質挙動、汚染土壌地盤の修復と再生利用



金子 賢太郎 博士(農学) 准教授
KANEKO Kenjaro

研究分野 栄養生化学/栄養生理学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/栄養生化学特論
【研究テーマ】食シグナルと脳機能のコミュニケーションを支える分子基盤に関する研究



鈴木 博実 理学博士 准教授
SUZUKI Hiromi

研究分野 生物物理学/バイオインフォマティクス

【最終学歴】東京理科大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/生物物理学特論
【研究テーマ】アミノ酸配列とタンパク質の構造との関連性/タンパク質の分子進化に関する研究



瀬戸 義哉 博士(農学) 准教授
SETO Yoshiya

研究分野 生物有機化学、植物ホルモン、植物生理学

【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】植物制御化学特論
【研究テーマ】低分子シグナル伝達物質による植物の成長制御メカニズムの解明と応用



田畑 亮 博士(農学) 准教授
TABATA Ryo

研究分野 植物栄養学、植物ペプチドホルモン

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/植物環境制御学特論
【研究テーマ】植物ペプチド分子による栄養吸収およびストレス応答制御機構の解明



山田 千早 博士(農学) 講師
YAMADA Chihaya

研究分野 応用微生物学、酵素学、微生物生態学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/発酵食品学特論
【研究テーマ】乳酸菌・ビフィズス菌の機能研究/新規オリゴ糖分解酵素の探索/オリゴ糖の合成

農学専攻

※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 農学専攻 教員一覧 >>>




池田 敬 博士(農学) 教授
IKEDA Takashi

研究分野 生産システム学/植物計測学/施設栽培学

【最終学歴】愛媛大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/作物科学特論
【研究テーマ】省力化を目指した都市近郊型施設内作物生産/環境ストレスと植物の生理生態/植物工場における効率的作物生産



糸山 享 博士(農学) 教授
ITOYAMA Kyo

研究分野 応用昆虫学/害虫管理学

【最終学歴】鹿児島大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】害虫および天敵昆虫の生活史戦略の検証/総合的害虫管理技術の開発



岩崎 直人 農学博士 教授
IWASAKI Naomi

研究分野 果樹園芸学

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】地球的規模の環境変動下における各種果樹の生産性および果実品質の向上に関する研究



岩崎 泰永 博士(農学) 教授
IWASAKI Yasunaga

研究分野 園芸学/土壌肥科学/農業工学

【最終学歴】東北大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/フィールドサイエンス特論
【研究テーマ】植物体内の光合成産物の動態に着目した栽培技術開発、新品種育成による生産性向上



倉本 宣 博士(農学) 教授
KURAMOTO Noboru

研究分野 緑地学/景観生態学/保全生物学/生態工学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/共生景観論特論
【研究テーマ】首都圏の生物多様性の保全と再生一里山・奥山・河川・都市・海洋・伊豆諸島一



登尾 浩助 Ph.D. 教授
NOBORIO Kosuke

研究分野 土壌物理学・環境物理学

【最終学歴】テキサスA&M 大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/農業農村工学特論
【研究テーマ】土壌・海洋・気層中における物質とエネルギー輸送の測定とモデリング



半田 高 農学博士 教授
HANDA Takashi

研究分野 花卉園芸学

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】花卉遺伝資源の多様性解析と利用/切り花の開花と花持ち



溝口 康 博士(農学) 教授
MIZOGUCHI Yasushi

研究分野 動物遺伝資源学・動物ゲノム科学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】動物における遺伝子マーカーを利用した育種と多様性に関する研究



元木 悟

MOTOKI Satoru

博士(農学)
教授研究
分野 野菜園芸学

【最終学歴】筑波大学
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】野菜類の生理・生態解明と安定生産技術・新作型の開発



大里 修一

OHSATO Shuichi

博士(農学)
准教授研究
分野 植物病理学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】植物病原菌の病原性変異機構に関わる基礎的研究と病害抵抗性植物の分子育種法開発



川口 真以子

KAWAGUCHI Maiko

博士(医学)
准教授研究
分野 環境因子の行動神経内分泌学による影響評価

【最終学歴】横浜市立大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】畜産動物からヒトに至るまでの環境改善を目的とした環境因子の生体への影響評価



菅野 博貢

KANNO Hirotsugu

博士(工学)
准教授研究
分野 緑地計画/都市計画

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/共生景観論特論
【研究テーマ】地域開発における戦略的アプローチと地区デザインの策定



小島 信彦

KOJIMA Michihiko

博士(農学)
准教授研究
分野 農業水文学/水利施設工学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/農業農村工学特論
【研究テーマ】人間の水利利用と自然の水循環との調和に配慮した利水システムの研究



佐々木 羊介

SASAKI Yosuke

博士(農学)
准教授研究
分野 動物生産学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】疫学的アプローチやデータサイエンスを用いた家畜生産性向上に関する研究



塩津 文隆

SHIOTSU Fumitaka

博士(農学)
准教授研究
分野 作物学

【最終学歴】愛媛大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/作物科学特論
【研究テーマ】作物における収量性・品質の向上に関する研究/気候変動に適應した作物栽培技術の開発



新屋 良治

SHINNA Ryoji

博士(農学)
准教授研究
分野 線虫学/(生態)進化発生学/植物保護学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】植物寄生線虫病に関する基礎・応用研究/多様な線虫を用いた進化発生学的研究/表現型可塑性研究



服部 俊宏

HATTORI Toshihiro

博士(農学)
准教授研究
分野 農村計画学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/農業農村工学特論
【研究テーマ】農地を中心とした土地利用計画と農村空間整備・地域資源管理手法に関する研究



矢崎 友嗣

YAZAKI Tomotsugu

博士(農学)
准教授研究
分野 環境気象学/農業気象学

【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/共生景観論特論
【研究テーマ】森林・湿地・農地における熱・水・CO₂収支と気候変化の影響の解析



伊藤 善一

ITO Yoshikazu

博士(農学)
講師研究
分野 施設園芸学

【最終学歴】千葉大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/フィールドサイエンス特論
【研究テーマ】ムラサキの栽培と紫根染に関する研究/アッケシソウの栽培に関する研究

農業経済学専攻

※2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 農業経済学専攻 教員一覧 >>>



池上 彰英

IKEGAMI Akihide

博士(農学)
教授研究
分野 中国農業論

【最終学歴】東北大学大学院
【担当授業科目】国際開発論演習/国際開発論特論
【研究テーマ】中国の「三農問題」と農業政策/中国の農業構造問題/中国の農産物流通システム



市田 知子

ICHIDA Tomoko

博士(農学)
教授研究
分野 農業政策/農村社会学

【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
【担当授業科目】環境社会学演習/環境社会学特論
【研究テーマ】ドイツを中心にヨーロッパの農村振興、都市と農村の関係を分析し、日本の実態と比較



大江 徹男 博士(経済学) 教授
OHE Tetsuo

研究分野 アメリカ農業/フードシステム論

【最終学歴】京都市立大学大学院
【担当授業科目】フードシステム論演習/フードシステム論特論
【研究テーマ】国内と北米における畜産物の流通構造と安全性



小田切 徳美 博士(農学) 教授
ODAGIRI Tokumi

研究分野 農業・農村政策論

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】地域ガバナンス論演習/地域ガバナンス論特論
【研究テーマ】農業・農村政策の政治経済学的分析/地域ガバナンス論/農山村再生論



作山 巧 博士(国際経済学) 教授
SAKUYAMA Takumi

研究分野 貿易政策論

【最終学歴】青山学院大学大学院
【担当授業科目】食料貿易論演習/食料貿易論特論
【研究テーマ】農産物貿易政策や国際貿易協定に関する政治経済学的研究



竹本 田持 博士(農学) 教授
TAKEMOTO Tamotsu

研究分野 農業経営学および地域農業論

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】農業マネジメント論演習/農業マネジメント論特論
【研究テーマ】地域内発的アグリビジネスと農山村振興



橋口 卓也 博士(農学) 教授
HASHIGUCHI Takuya

研究分野 戦後日本の農業・農村政策

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農業政策論演習/農業政策論特論
【研究テーマ】条件不利地域政策の展開動向と政治経済的背景についての実証分析



藤栄 剛 博士(農学) 教授
FUJIE Takeshi

研究分野 農業・資源経済学

【最終学歴】京都大学
【担当授業科目】資源経済論演習/資源経済論特論
【研究テーマ】マイクロデータによる農業資源・環境問題の経済分析



岡 通太郎 博士(地域研究) 准教授
OKA Michitaro

研究分野 開発経済学/農村経済論/新制度派経済学

【最終学歴】京都市立大学大学院
【担当授業科目】共生社会論演習/共生社会論特論
【研究テーマ】アジア農村における要素市場構造と資源利用制度における基層文化の役割と変容



片野 洋平 博士(法学) 准教授
KATANO Yohei

研究分野 食・農・環境の社会学 法社会学

【最終学歴】上智大学大学院
【担当授業科目】食料農業社会学演習/食料農業社会学特論
【研究テーマ】食をめぐる社会的分析/地域社会における環境政策/所有者不明土地の問題の解明



佐々木 宏樹 博士(農学) 准教授
SASAKI Hiroki

研究分野 農業環境政策/環境経済論

【最終学歴】大阪大学大学院
【担当授業科目】環境経済論演習/環境経済論特論
【研究テーマ】農業環境問題への政策的アプローチとその評価、行動経済学を活用した農業者・消費者の行動変容に関する研究



中嶋 晋作 博士(農学) 准教授
NAKAJIMA Shinsaku

研究分野 農業経済学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】食ビジネス論演習/食ビジネス論特論
【研究テーマ】食ビジネスの経済学的研究/農地集積のマーケットデザイン



本所 靖博 修士(商学) 准教授
HONJO Yasuhiro

研究分野 持続可能性の会計学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】環境資源会計論演習/環境資源会計論特論
【研究テーマ】持続可能性と会計/大学生の地域貢献とCSV/農業経営分析/農産物原価計算



暁 剛 博士(農学) 講師
XIAO Gang

研究分野 農業経済学/内モンゴル農業論

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】国際農業経済論演習/国際農業経済論特論
【研究テーマ】内モンゴルにおける農家の階層分化

生命科学専攻

- ※ 2025年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
- ※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ [生命科学専攻 教員一覧 >>>](#)




浅沼 成人 博士(農学) 教授
ASANUMA Narito

研究分野 微生物学/栄養学

【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義II
【研究テーマ】消化管微生物の遺伝子的代謝調節機構の解析

**乾 雅史**博士(理学)
教授

INUI Masafumi

研究分野 発生生物学・シグナル伝達【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】脊椎動物筋骨格系の発生メカニズム**大鐘 潤**博士(農学)
教授

OHGANE Jun

研究分野 エピジェネティクス【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】組織・細胞種特異的DNAメチル化と非コードRNAによるエピゲノム改変**賀来 華江**学術博士
教授

KAKU Hanae

研究分野 糖鎖生物学/植物環境分子生物学【最終学歴】大阪市立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】植物の防御応答シグナル認識・伝達機構に関する研究**川上 直人**農学博士
教授

KAWAKAMI Naoto

研究分野 植物環境生理学/植物分子生理学【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】温度による種子休眠・発芽制御機構の解明**河野 菜摘子**博士(理学)
教授

KAWANO Natsuko

研究分野 動物生殖科学、分子細胞生物学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】体内受精におけるオス精漿タンパク質の役割、精子と卵子の膜融合メカニズム**紀藤 圭治**博士(理学)
教授

KITO Keiji

研究分野 質量分析を利用したプロテオミクス研究【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅱ
【研究テーマ】酵母種間におけるプロテオーム比較解析・老化タンパク質の網羅的解析・プロテオーム絶対定量解析技術の開発**戸村 秀明**理学博士
教授

TOMURA Hidenori

研究分野 シグナル伝達学【最終学歴】東京都立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】Gタンパク共役型受容体を中心とした情報伝達機構と生体機能の解析**中村 孝博**博士(農学)
教授

NAKAMURA Takahiro

研究分野 時間生物学・神経科学・動物行動学【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】体内時計発振機構の解明および生体リズムを利用した医薬品開発・食糧生産への応用**長嶋 比呂志**農学博士
教授

NAGASHIMA Hiroshi

研究分野 発生工学/生殖生物学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】動物のクローニング/遺伝子改変動物の作出及び移植・再生医学への応用**浜本 牧子**農学博士
教授

HAMAMOTO Makiko

研究分野 応用微生物学・微生物分子系統分類学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅱ
【研究テーマ】遺伝資源としての新規微生物の探索と活用・分裂酵母の新規機能遺伝子の探索と機能解析**吉田 健一**博士(医学)
教授

YOSHIDA Kenichi

研究分野 細胞生物学・分子発生学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】哺乳動物細胞の増殖・分化ならびに恒常性維持機構の研究**吉本 光希**博士(食品栄養科学)
教授

YOSHIMOTO Kohki

研究分野 植物分子細胞生物学・植物生理学【最終学歴】静岡県立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】植物の環境適応における細胞内自己分解系・オートファジーの分子機構とその役割の解明**渡辺 寛人**博士(農学)
教授

WATANABE Hirohito

研究分野 食品化学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】腸管上皮細胞の機能解析/生体内メイラード反応が関与する糖尿病合併症発症機構の解明**高橋 直紀**博士(工学)
准教授

TAKAHASHI Naoki

研究分野 植物分子遺伝学、植物生理学【最終学歴】東京理科大学大学院
【担当授業科目】生命科学演習/生命科学総合講義Ⅴ
【研究テーマ】植物の環境適応機構の解明



田中 博和

TANAKA Hirokazu

博士(理学)
准教授

研究
分野 植物細胞生物学 / 植物発生生物学

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学総合講義V
【研究テーマ】植物の細胞極性と発生の制御機構の研究



長竹 貴広

NAGATAKE Takahiro

博士(医学)
准教授

研究
分野 免疫学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習 / 生命科学総合講義IV
【研究テーマ】食を介した免疫・アレルギー・炎症の制御/
粘膜関連リンパ組織形成機構の解析